

校長研修だより244

朝礼に話した「部長会」のこと

2026・4・30 重枝 一郎

本校に赴任した時から言っていることだが、年度当初の「初頭効果」を狙った取組をタイミングという武器を使って実践してほしいと思っている。

そこで、「部長会」をゴールデンウィーク明けにやるのはどうだろう。ねらいとしては、3つに絞る。

- ① 応援される力（チャージング）を持つための、「感じのよいあいさつ」
- ② インターハイ等最後の大会に向けての「チームワークづくり」
- ③ 新入部員への「思いやり」

これらのことを、各部長は考え、他の部長と意見交流し、自分の考えを整理する。それを部のミーティングで部員としっかり共有する。この発信する経験は、ミッションALになる。

これもよく話すことだが、部活をしているだけでは「守られている間」のことであり、「守る力」ではない。誰かのために、社会のためにといった発信する力や行動する力を付けることが「守る力」になる。「守られている間に、守る力を」付けさせたい。

また、「成功の循環」は、「関係性の質」が高まれば、安心・安全に自分の考えを話せるので「思考の質」が高まる。思考が活性化したら、行動が積極的になって「行動の質」が高まり、結果が出る。結果とは、優勝するとか、何位になるとかではなく、達成感、成長実感が「結果」ということである。「One&Only」につながる。だから、まずは「関係性の質」を高めたい。

部活動について

1 部活動に対する考え

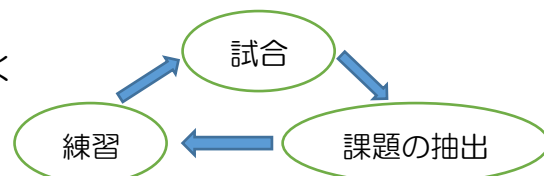
- 部活動は本校での重要な教育活動の一つです
- 部活動を通して対社会・対人への興味、理解を深めることが期待されます
- 生涯にわたって、人との多様な関わり（する、認める、支える）ができるようになることを目指すものです

2 部活動の目的、期待される効果（部活を学ぶ、部活で学ぶ、部活が教える）

- 部活動に入部する生徒は、楽しみたい、成長したいとの思いが第一です
- 部活動の運営や指導は「楽しむ、上手くなる」ために合理的かつ効果的になされるように工夫していきます
- 部活動を通して、偏見や差別のないオープンな心をもつこと、そして、不正や社会悪を許さない正しい心、協調性、自律などを学ぶことができます
- しかし、社会性の学びは部活動だけでは不十分であり、部活動以外の時間への配慮が必要です

3 成功の循環

- このサイクルを年間通して続けていく

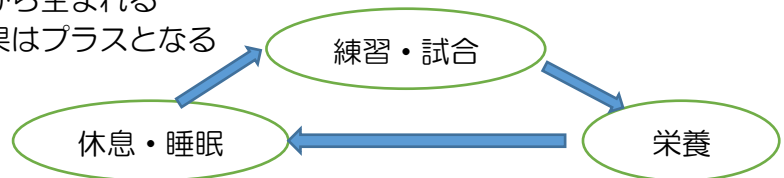


4 練習について

- 生徒のニーズに応じた目標を生徒と一緒に設定します
- 現状把握と目標の明確化（結果目標・行動目標）を生徒と一緒に設定します
- 逆算プランニングしながら長期・短期計画を立てます

5 練習の効果について

- 練習の効果はこのプロセスから生まれる
- 休息が適切であれば練習効果はプラスとなる



6 指導上の留意点

- ①目標をもった練習をする
- ②反復の確保・強度のコントロール
- ④ コーチング（教師：積極的，ポジティブ）（生徒：主体的）

※ 部活動は、教科の授業につながると考えます。つまり、選手＝生徒，指導者＝教師，練習＝授業，目標＝授業の目標など，置きかえて考えることで，全教育活動に筋を通して，生徒の成長を図ることにつながると思います。私たち教師も，教科の授業に置きかえることで，「教科をこえた指導力」の向上につながります。